

◆ 今週のコメント

- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.02(42例)で、前週 0.78(32例)に比べ増加しています。年齢群別では、2歳が11例(26.2%)と最も多く、次いで3歳が10例(23.8%)で、0歳～3歳が73.8%を占めています。

◆ 今週のトピックス:<風しん>

風しんの報告が7例(男性5例(20歳代 1例, 30歳代 2例, 40歳代 2例), 女性2例(20歳代 2例))あります(第14週追加報告分 1例含む)。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 99例(肺結核 55例, その他結核 23例, 潜在性結核感染者 21例)うち喀痰塗抹陽性 31例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例 5例, 臨床診断例 2例) 7例(第14週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 18例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	1.99	135
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.41	181
	② 水痘	1.02	42
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	38
	④ 突発性発しん	0.41	17
	⑤ RSウイルス感染症	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

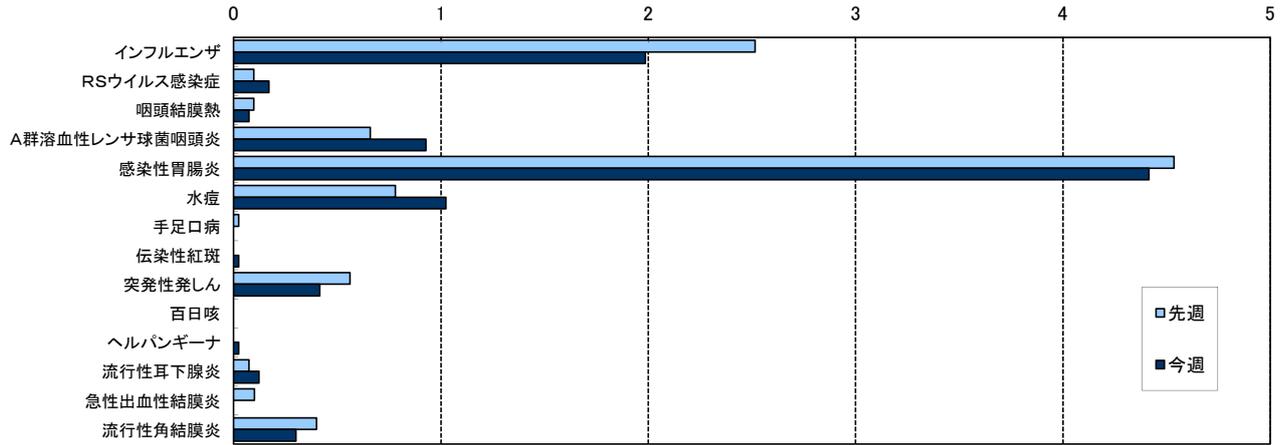
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<風しん>

(注)京都市のデータは、平成25年4月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

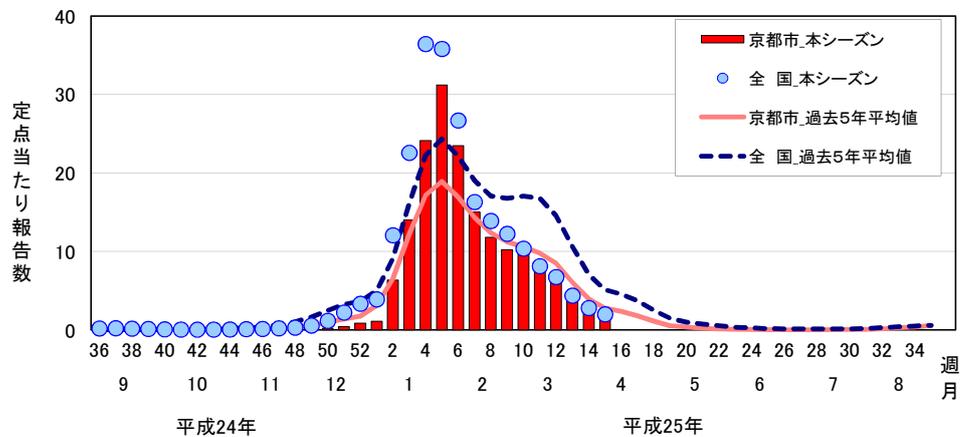
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

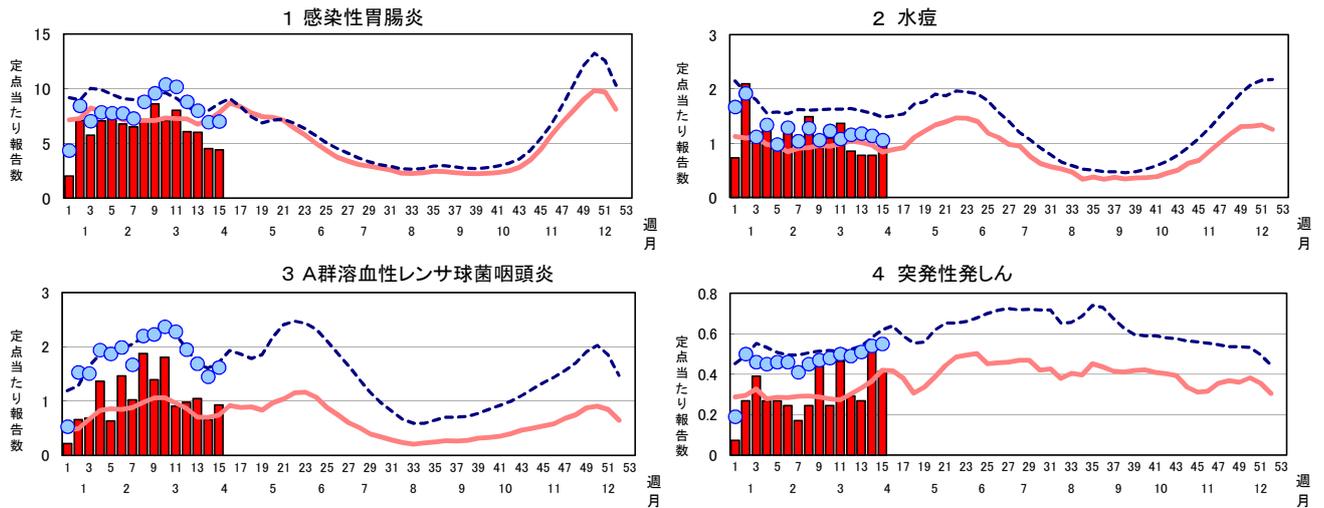
週	報告数(例)
第11週	563
第12週	448
第13週	257
第14週	171
第15週	135
累積報告数 (第36週以降)	11,564



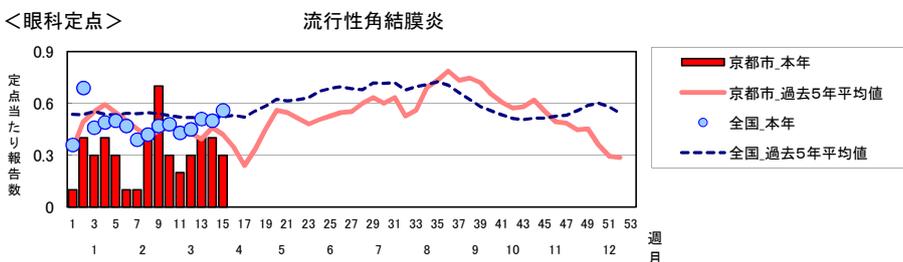
*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第15週(4月8日～4月14日)トピックス: <風しん>

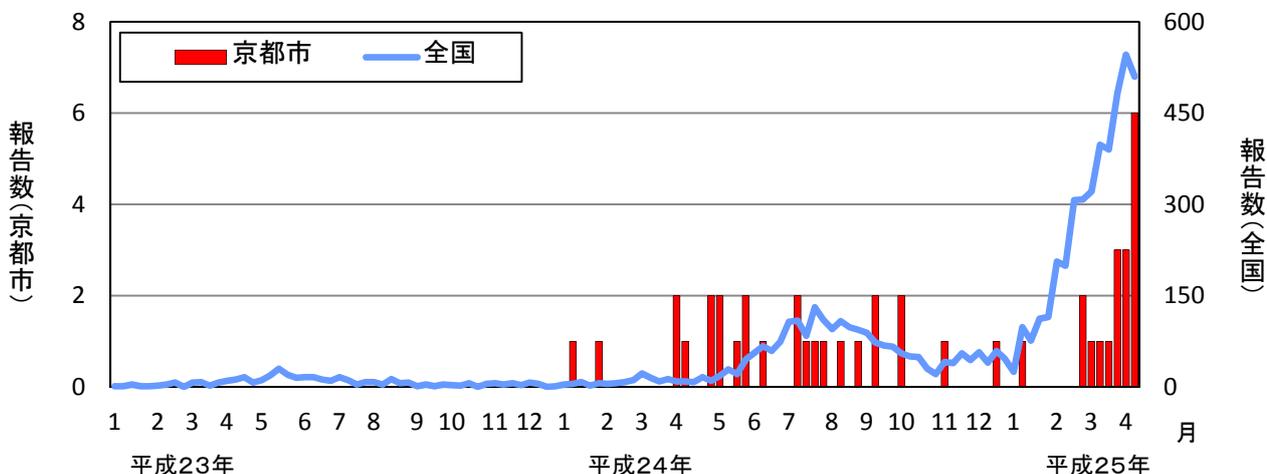
風しんの報告が7例(男性5例(20歳代 1例, 30歳代 2例, 40歳代 2例), 女性2例(20歳代 2例))あります(第14週追加報告分 1例含む)。第9週(2月25日～3月3日)から7週連続の報告です。本年の累積報告数は18例となっており、風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降、一番多かった平成24年の同時期と比べて、約4倍となっています。全国の累積報告数も4,094例と平成24年を大きく上回っています。今後の動向にご注意ください。

京都市の性別年齢群別累積報告数は、男性 14例(10歳代 1例, 20歳代 3例, 30歳代 5例, 40歳代 5例), 女性 4例(20歳代 3例, 60歳代 1例)で、20歳代～40歳代男性の報告数が多くなっています。女性は20歳代が3例と多くっており、そのワクチン接種歴は、なしが2例、不明が1例です。

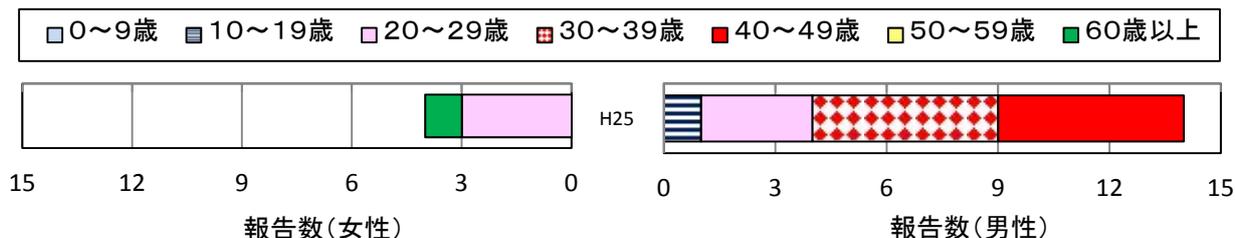
京都市及び全国の報告数の推移(平成25年4月19日現在)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年 ()内は第15週まで	平成25年 第15週まで
京都市	1	1	0	0	26(5)	18
全国	303	147	87	374	2,391(132)	4,094

京都市及び全国の報告数の推移(平成25年4月19日現在)



平成25年京都市の性別年齢群別累積報告数



全国の性別年齢群別累積報告数の年次推移

